

さあ 世直し総選挙だ!!



和歌山県版
No.398

2024.10.15

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
和歌山県本部

☎ 640-8343

和歌山市吉田 102

国労会館 2階

☎ FAX : 073 (422) 7076

フェイスブック

治安維持法犠牲者国
家賠償要求同盟和歌
山県本部

🔍 検索

email:chian_gisei
sya@yahoo.co.jp

- 一、治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する法律であったことを認めること。
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償をおこなうこと。

私たちの運動の基本

ふたたび戦争と暗黒政治を許すな

急速に反動化する日本政治をこのままで放っておくわけにはいかないことは同盟会員にとって自明のことです。その運動の先頭に一区井本有一氏、2区には楠本文郎氏が立候補しています。「比例代表は共産党」を合言葉に総力挙げて奮闘しましょう。

国賠同盟は政治的には政党支持の自由が原則です。国会請願にあたっては日本共産党の全・国会議員、立憲民主党、社民党、国民民主党では各議員有志が紹介議員になってくれています。しかし、政党として一貫して挙げて支援されているのは共産党だけです。そういう事実にもとづいて国賠組織としては選挙にあたっては比例では日本共産党、選挙区では共産党候補者を推薦しています。

選挙区では1区紀の川市、岩出市、和歌山市の候補者は井本有一氏を推薦、2区(1区以外の地域)の候補者は楠本文郎氏を推薦し、必勝を期して奮闘しましょう。

比例代表は選挙区を問いません。一票も無駄がありません。全国のお知り合いにもれなく声を掛けましょう。自民党が大汚点を抱きながら看板を付け替え、野党共闘が必ずしもうまく広がっていない状況のなか、共産党の躍進こそ日本の政治を変える大きなチャンスでしょう。

第2回理事会を延期しました

10月19日に予定していた県本部第2回理事会は、各理事が衆議院選挙の最中の最も多忙な時なので延期することになりました。予定していた専門部の責任者の決定や、会員

拡大、署名の収集などについての議論を予定していましたが、専門部については予定者で任務を遂行し、署名、会員拡大については即急な支部での決定と活動開始をお願いすることになりました。

ノーベル賞平和賞が被団協に

ロシアが対ウクライナ戦争で核兵器の使用をちらつかせる危機のなかで被団協が受賞したことは、被団協の名誉であるとともに核廃絶の運動をさらに強化することを世界に呼びかけるものであり、とりわけ日本への激励でもありました。

ただ石破総理は顔色一つ変えない厚顔無恥ぶりです。総選挙でこの傍若無人の面に強力なパンチをあげましょう。

近畿ブロック会議に参加

県本部事務局長 南條 佳弘

9月23、24日、神戸市で、国賠同盟の近畿ブロック会議が開催され、和歌山県同盟より芝峰進(西牟婁支部)、細川豊三郎(橋本・伊都支部)、松尾美男(那賀支部)、南條佳弘(県本部)の4名が参加、ブロック全体で55名の参加者でした。

23日午後1時より開会。中央本部より主催のあいさつ。開催担当県の兵庫県本部からの歓迎挨拶があり、つづいて「自民党政治を終わらせるために」と題した石川康弘神戸女学院大学名誉教授の記念講演がありました。引き続き、中央本部事務局長永島民男氏より「治安維持法100年・2万の同盟で謝罪と賠償に決着を」とした報告がありました。

報告は、(1)「治安維持法100年」の取り組みでは、①中央実行委員会の結成(7・17)(幹事団体:救援会、民医連、自由法曹団、国賠同盟)、②名称を「治安維持法100年・再び戦争と暗黒政治を許さない実行委員会」に。(2)「2万の同盟建設」の現局面について

では、「2万の同盟を一日も早く実現しよう」の方針のもと、今年7月現勢は17090人(8月1日付)と過去最高に。なお、各県の自主目標の合計は2万751人。9月1日現勢は1万7053人。

(3)各地で「学習テキスト」の活用がすすんでいる。まず一冊を読んでみよう。事務局で、県・支部の役員で。

(4)第33回同盟女性全国交流会は11月10日(日)〜11日(月)、愛知県蒲郡温泉(ホテル竹品)に決定。

近畿ブロック会議参加者のレポートは3頁下段に掲載。なお、同レポートは次号にも掲載します。

訃報

妹背順二さん 75歳

那賀支部所属、紀の川市杉原在住の妹背順二さんが2024年4月30日死去されました

宮井 保美さん 76歳

那賀支部所属、岩出市山 在住の宮井保美さんが2024年8月21日死去されました

謹んで哀悼の意を表します

こたま

自民党の総裁は石破茂氏に決まった。同総裁選最中に、安倍晋三元首相と統一協会の強いつながりを示す実態を、朝日新聞が写真入りで紹介した◆同報道によると、2013年6月、自民党本部で統一協会の徳野英治会長(当時)らと、安倍首相、実弟の岸信夫元防衛相、萩生田光一元経済産業相が同席したという。当時自民党の幹事長だったのが石破茂氏だ◆2023年7月に奈良西大寺駅前で安倍晋三元首相が銃撃された。事件は靈感商法の統一協会に巨額の献金を、だまし取られ家庭が崩壊した同協会信者の二世による、怒りの爆発であった。首相が暗殺されるという衝撃的な事件も、時間がたつにつれ触れられなくなる。というよりも意識的に徹底的に触れようとしない◆自民党の党ぐるみの統一協会との癒着の始まりは、安倍晋三元首相の祖父岸信介元首相時代の、国際勝共連合(統一協会の始まり)からという根深いものだ◆石破茂新総裁も自ら統一協会とのつながりを認めている。悪徳・靈感商法の統一協会問題も決してうやむやにしてはならない。

社会運動史カジリ書き (2)

(「アラカルト 和歌山の社会運動史」改題)

米騒動・湯浅町の騒動から

米騒動は耕地の少ない漁村から大きくなる場合が多い。富山県でもそうであったように和歌山県でも8月3日最南端の漁師町西牟婁郡串本町で外米購入嘆願行動が起こった。

当日の『和歌山新報』は、「米価と世間、生活難の声なき理由」という「言論」を冒頭に掲げて米価の「今日の極端な大暴落の前に(略)世間は依然として好景気に収まっている。生活難の声はほとんどないではないか、これは近来にない怪しむべき一事である」「どう考えても中等階級以下は今日遣りきれぬはずはない。しかもやり切りつつある如く生活難を叫ばないのはきわめてあやしむべきことなり」と述べ「一朝経済的反動が来た場合、その惨害は実に測り知るべからざるものがある」「政府と地方当局、識者は即急に対策すべし」と論じていた。しかし声は上がりつつあった。その5日後、有田郡湯浅町でその声は爆発した。「漁民の女房一揆」が起こった。

「湯浅町農会が一時期外米を斡旋して指定価格で販売する」となり、運動は

落ち着きかけたが、2、3日後には品切れとなった。やがて米屋が200袋(一袋6斗8升)を他村に転売したことが発覚、女性達は激怒しそれはたちまち全村に広がった。女性たち200人が米屋に、さらに200人が役場に押しかけ、町長は臨時町会を開き対策すると回答、米屋は2000円の寄付を約束した。しかしそれでは収まらず役場前の福蔵寺の鐘が打ち鳴らされ群衆は1千人ほどに膨れ上がった。騒ぎは深夜まで続いた。

10日、臨時町会は町内の有志から寄付をあつめ外米400袋を買い入れ、1升21銭で売ることを、町内の米屋から在庫米を買い上げ、1升37銭で販売することを決めた。しかし人々は納得せず役場に押しかけ、午後10時ごろその人数は約1000人となった。

11日午前1時ごろ「悪いのは米屋だ」ということになり群衆は次々と米屋に押しかけ激しい投石が始まった。警官一人が暴行を受けたことを契機に警察により50人ほどが逮捕され「騒動」は静まった。

しかし、「騒動」はさらなる規模で全県に波及していた。(T.Y.)

近畿ブロック会議レポート

橋本・伊都支部 細川豊三郎

各地域の報告では、どの県も同盟員の高齢化や死亡のため署名活動の困難さや同盟員の減少が報告されていましたが、これで活動をやめるのではなく、これからは粘り強く活動を続けていく姿勢がありありと感ぜられました。半世紀以上にわたって毎年署名を集めて国会請願しても、日本政府から謝罪と賠償を勝ち取ることは出来なくても、信念を持ち続ける活動をしている国賠同盟は流石だなあと思いました。この同盟の運動の基本である「再び戦争と暗黒政治を許すな」のために何をすべきか、現在の日本政府は着々と戦争の準備を進めておりますがこれをストップさせて戦争をさせない国に変えていくには自分自身が自分に近い周りの人達だけに話しかけるだけでなく、記念講演の内容にもあったように支持なし層に働きかけて大いに支持と署名を集め、この運動を少しでも前に進めていくことが大切だと思えました。

和歌山の治安維持法犠牲者

戦後なじみのある人達 (2)

高山與四郎さん

本籍：那賀郡東貴志村（現紀の川市）

高山さんは、1930年2月11日の全国一斉弾圧で、日本共産党に入党しているとして検挙され、1931年6月23日大阪地方裁判所で、懲役3年6ヶ月、未決勾留180日算入の判決を受ける。

戦後は貴志川町議

1946年2月和歌山県党（日本共産党）の再建に参加、県委員となる。1947年全日農連役員、全国全農中央委員を歴任。また、参議院地方区に立候補する。1959年以後、貴志川町議を3期務めた。1978年11月より、日本共産党和歌山県委員会顧問。早稲田大学中退。1981年5月5日死亡。享年74。

（犠牲者名簿第2版から）。

1968年ごろ

筆者が共産党北部地区の勤務員（赤旗分局員）になった68年頃、中之島の地区

委員会事務所（明石かすまさん宅）で、貴志川町議時代の高山さんをお見掛けしました。

当時はまだ県下の共産党の地方議員は少ない時代でしたから、二十歳過ぎの私が、町会議員さんなのだと思つて、尊敬の念で見えていましたが、直接話をした記憶がありません。優しそうなおじさんでした。

月岡信雄さんの手記から（一部）

「高山與四郎さんとの初対面は、1966年夏ごろだったか。…第一印象は物静か、小柄で反つ齒のニコニコ顔を絶やすことのない『好々爺』つて処だろうか。50歳前後の事だったと思います。

それから10数年後、私が共産党県委員会の勤務員だった時に、旧貴志川町議予定候補者としての活動を始めたころから高山さんはいろいろと面倒を見てくれました。

高山さんの日頃の暮らしぶりは質素なものでした。（独身）。生家（貴志川町岸小野Ⅱ現紀の川市）の主屋で住んでいる甥っ子のはなれ部屋でひっそりと、たくさんの蔵書に囲まれて、本ばかり読みふけている印象が強かったです。」

（『不屈』和歌山県版「2014年4月号より」

（瀬戸正男）

和歌山の万葉歌

朝もよし 紀人ともしも 真土山
行き来と見らむ 紀人ともしも

（巻一―五五 調首淡海）

橋本市と五條市の境の峠が真土山。

歌意は「紀伊の国の人は羨ましいよ、行き帰りにいつも真土山を見られる」。

真土の周辺にはいくつかの歌碑があつて、若いころに訪ねたことがあります。若いころに訪ねたことがありませんでした。冒頭の歌も万葉集では、

「朝毛吉 木人乏母 亦打山
行来跡見良武 樹人友師母」
とある様です。

調首淡海（つきのおびとあふみ）

（資料）『万葉の歌』村瀬憲夫著

『紀伊の国万葉歌碑散歩』佐々

木政一著

（瀬戸正男）